

漁場等環境モニタリング調査

岡村貴司・幡野真隆

◆背景・目的

主たる漁場である琵琶湖北湖盆の漁場環境の動向を把握するための基礎資料とするために、継続して調査を行う。

保護水面管理事業の一環として、保護水面指定水域の水質や流量が適切に維持されているか監視するため、水質や流量の調査を行った。

◆成果の内容・特徴

○琵琶湖定点定期観測

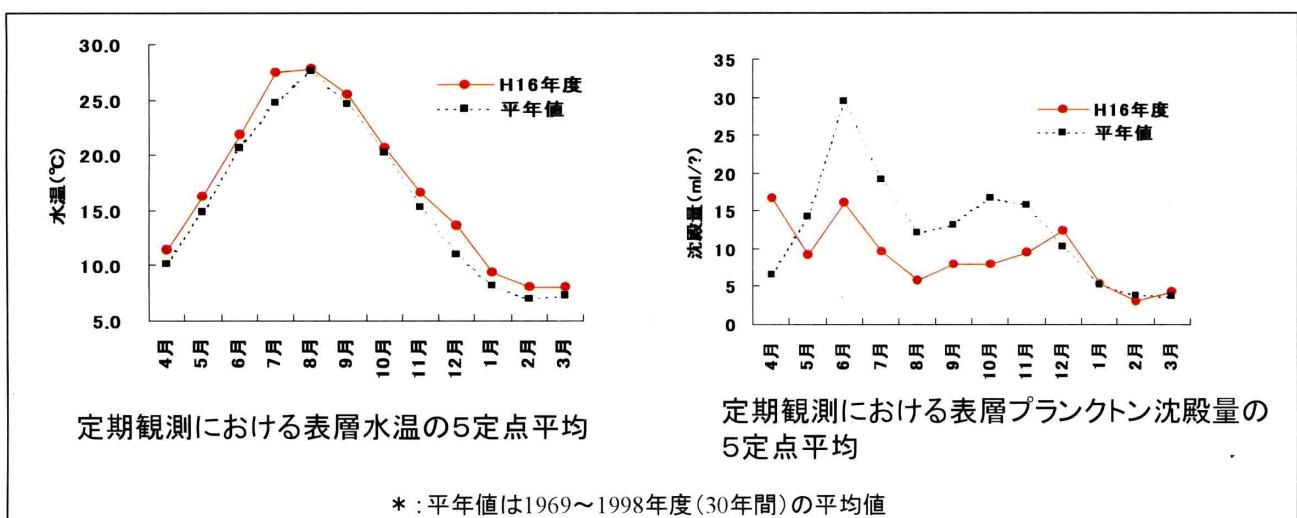
- ・琵琶湖北湖5定点において、透明度、水温、pH、プランクトン沈殿量、D₀、CODおよび栄養塩等の分析を行った。
- ・湖水温は平年値に比べ、通年、高い傾向にあった。
- ・プランクトン沈殿量が平年より少ない傾向にあった。

○保護水面指定水域(フナ・モロコ)湖岸の水質調査

・T-PやCODにおいて、水産用水基準の基準値を上回る測定値があったが、過年度と比較すると、概ね範囲内であった。

○野田沼(内湖)水質変動調査

- ・各月1回、5地点における一般水質項目(COD、窒素、リン)の測定を行った。水産用水基準に比べ、懸濁物質量が高いが、測定値は昨年並であった。



◆成果の活用・留意点

- ・今後も継続して、漁場や保護水面指定水域の動向を把握するためのモニタリング調査を行っていく必要がある。